

『全国学力学習状況調査について』

10月の教育委員会の懇談のテーマは『全国学力学習状況調査の結果と今後の指導』についてでした。この調査から、国語力（読みとる力）の大切さを思い知りました。言葉からまた言葉以外の資料から、何を言わんとしているのかを読み取ることが試されています。日頃から書籍や新聞に親しむと共に、インターネットの情報を丁寧に読み取る力を付けることが大切となります。また家庭学習の時間や内容についてもご指摘をいただきました。タブレットの活用した学習について、津島市の子どもたちは全国や愛知県と比べて、肯定的・積極的にとらえていることがよくわかりました。タブレットを活用して、調べる・まとめる・発表する・交流する、様々な場面でタブレットを生かしてほしいと思いました。また自己肯定感を高めることの大切さをご指摘頂きました。

10月4日、人権に関する講演会でお話をしました。県下から多数の方に参加していただきました。被差別部落の歴史やこれからの課題について話をしました。「どうして差別が始まったのか」「なぜ差別が続いているのか」がテーマとなりました。江戸時代から明治時代にかけての身分制度、職業に付きまとうと考えられたケガレやキヨメについてお話をしました。多様性の理解の大切さを感じました。自分と異なる見方や考え方を柔軟に受け入れることについて話しました。キーワードは柔らかな心です。「正しいと思ったことを正しく行うこと」と結論付けました。

10月27日・28日・29日と市の文化祭美術展・郷土の芸術家展が行われました。「書」「絵画」「彫塑」「写真」等の作品を楽しむことができました。松下芝堂先生の作品から、一本の線を引く、一つの点を打つ難しさを感じました。また27日には、画家の横井照子さんファミリーが津島を訪ねて下さいました。アメリカから照子さんの娘さんや孫さんがおみえになりました。津島高校で、照子さんが若い時にお書きになった肖像画や文集を見て頂きました。観光協会の皆さんのお骨折りもあり、恵那市のひなげし美術館の皆さんもお越しになり、生誕百年に向けての準備をすることができました。「なぜ照子さんがアメリカに渡って美術の修行をしたのか」「照子さんのひなげしや睡蓮、椿などの原風景はどこにあるのか」について話し合うことができました。

パソコンの打つ手を止めし稲光
銭湯の暖簾を出れば後の月

令和5年11月4日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視